

2022年度入学試験問題

小論文

(教育学部 養護教諭養成課程 前期)

注 意

- 1 問題冊子は1冊(3ページ), 解答用紙は3枚, 下書き用紙は3枚です。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明, ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等により解答できない場合は, 手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 すべての解答用紙に, それぞれ2箇所受験番号を記入しなさい。
- 4 解答は, すべて解答用紙の指定されたところに書きなさい。
- 5 試験終了後, 問題冊子と下書き用紙は必ず持ち帰りなさい。

問題 次の資料1, 2を読み, 設問1, 2, 3に答えてください。

資料1

人間のあらゆる活動は——顎を掻くことから, 原子爆弾を爆発させることまで——たったひとつの欲求の結果だ。その欲求とは, 胸の内の精神状態を変えたい, というもの。そこを出発点にして, 私たちは感情に支配される。脅かされると, 怯えるか怒るか, 逃げるか攻撃に出るかだ。身体にエネルギーが足りなくなると, お腹が空き, 食べ物を探そうとする。

ここが完璧な世界で, その人が直面する選択肢の情報をすべて得ることができよう。サンドイッチを食べようかどうか悩んでいる人は, 栄養素, 味, パンが焼き立てかどうかをちゃんと把握している。今自分の身体に栄養を補給しなければいけないこと, それにはサンドイッチが最適だということもわかっている。そういった情報をすべてまとめ, サンドイッチを食べるか否かを合理的に決定することができる。もし私たちの祖先がこんな「完璧な世界」に暮らしていて, 蜂蜜がたっぷり詰まったハチの巣の前に立ったら, 蜂蜜が秘める危険性と可能性についてあらゆる情報を手に入れられたわけだ。その巣に入っている蜂蜜の量とカロリー, 自分の貯蔵エネルギーがいまどれくらい残っているのか。巣から蜂蜜を奪うために, 負傷する危険性はどのくらいあるか。ハチ以外に危ないものはないか? 簡単にすべての情報をまとめ, 蜂蜜を取るべきか否かを合理的に決定することができる。問題は, 祖先がいたのはそんな完璧な世界ではなかったし, 私たちがいる世界もそうではないことだ。

ここで感情が登場する。私たちに様々な行動を取らせ, 瞬時に全力で行動に出られるようにするのが感情だ。意識ある「あなた」が十分な情報を持ち合わせていない場合, もしくは決断に時間がかかりすぎる場合, 脳は即座に大まかな見積もりを取り, 感情という形で回答を返してくれる。「すごくお腹が空いた, だからサンドイッチを食べよう」あなたの祖先も同じように, 空腹を感じて蜂蜜を取ったのだ。それで大変な目に遭う可能性は低いと判断した場合, もしくは究極に飢えていた場合は。危険が大きすぎると判断すれば, 恐怖を感じてやめておく。

スーパーのお菓子売り場の前に立つと, 餓死を回避すべく進化したアルゴリズムが

素早く見積もりを取り, 私たちに答えを与えてくれる。「お菓子が食べたい!」そんな激しい欲求という形で。食べ物が溢れるほどある現実には, 脳は追いついていない。だからお菓子の棚の前に立つと, 多くの人には合理的な判断を下せなくなる。

出典: アンデシュ・ハンセン著 久山葉子訳 スマホ脳

資料2

現在, 私が勤務している大学で, 頻繁に起きる学生の問題行動の一つは, 図書館の本を無断で持ち出すことです。無断で本を図書館から持ち出すと, 出入口でブザーが鳴る仕掛けになっています。大きな問題行動ではないので, 毎回反省文を書かせて, 説諭をして帰すことになります。反省文の内容は, これこそワンパターンです。「私の不注意で, 大変なご迷惑をかけてしまいました。二度とこのようなことが起きないように, これからは気を引き締めて, 勉学に励みたいと思います」。「ここまで書くか」と言わんばかりの「りっぱな反省文」です。これでは何の解決にもなりません。だからと言って, 何もしないわけにもいきません。結局, 反省文を書かせて終わり, ということになるのです。

しかし, 皆が見事に「りっぱな反省文」を書いてくることは, ちょっと恐くないでしょうか。「りっぱな反省文」が書けるということは, 普段から学生は叱られることに慣れていて, しっかり反省させられているということです。ということは, 「りっぱな反省文」が生まれる原点は, 家庭でのしつけや教育にあるということです。悪いことをしたら, しっかりと反省させるしつけや教育が行き届いているのです。

—中略—

反省させるだけだと, なぜ自分が問題を起こしたのかを考えることになりません。言い換えれば, 反省は, 自分の内面と向き合う機会(チャンス)を奪っているのです。問題を起こすに至るには, 必ずその人なりの「理由」があります。その理由にじっくり耳を傾けることによって, その人は次第に自分の内面の問題に気づくことになるのです。この場合の「内面の問題に気づく」ための方法は, 「相手のことを考えること」ではありません。親や周囲の者がどんなに嫌な思いをしたのかを考えさせることは,

確かに必要なことではありますが、結局はただ反省するだけの結果を招くだけです。私たちは、問題行動を起こした者に対して、「相手や周囲の者の気持ちも考えろ」と言って叱責しがちですが、最初の段階では「なぜそんなことをしたのか、自分の内面を考えてみよう」と促すべきです。問題行動を起こしたときこそ、自分のことを考えるチャンスを与えるべきです。周囲の迷惑を考えさせて反省させる方法は、そのチャンスを奪います。

出典：岡本茂樹著 反省させると犯罪者になります

設問1 資料1の「感情」について、著者はどのように述べていますか。50字以内で説明してください。

設問2 資料2の下線部で、著者が伝えたいことは何ですか。100字以内で説明してください。

設問3 資料1, 2をふまえて、養護教諭として子供に接する時に大切にしたいことを600字から650字以内で述べてください。